

事例報告

京都府で発生した高病原性鳥インフルエンザ事案について

平成16年9月16日

京都府保健福祉部次長 和田 健

京都府中丹西保健所長(前園部保健所長)

弓削マリ子

事案の経過

- 16.2.26. 園部保健所、南丹家畜保健衛生所に匿名電話
- 16.2.27. 未明にA農場立ち入り検査。簡易キット陽性。京都府対策本部設置。
- 16.2.29. 高病原性鳥インフルエンザ確定、殺処分命令。殺処分開始。
半径30km以内の鶏等の移動制限。
- 16.3.1. 京都府高病原性鳥インフルエンザ専門家会議設置。鶏の処分地、地元合意。
- 16.3.3. T町T養鶏場で高病原性鳥インフルエンザを疑う事例発生
- 16.3.4. T養鶏場へ殺処分命令
- 16.3.5. A農場・T養鶏場の殺処分完了。陸上自衛隊による掘削作業等開始。
- 16.3.7. 国立感染症研究所から専門医3名派遣。死亡からすからウィルス分離される。
- 16.3.11. T養鶏場の防疫作業完了。
- 16.3.16. 総額8億円の緊急対策予算を盛り込んだ補正予算可決成立。
- 16.3.22. A農場の防疫作業完了。
- 16.3.23. 第一次清浄確認検査
- 16.3.31. A農場を告発
- 16.4.1. 移動制限区域の縮小及び搬出制限区域の設定
- 16.4.5. 第二次清浄確認検査
- 16.4.13. 搬出制限区域の解除、移動制限の解除、終息宣言。

2 事案の特色

《 1 . 家畜伝染病予防法などの想定を超える大量感染・大量死の大規模事案》

・ 事案発覚から終息宣言まで (4 7 日間)

・ 処分した鶏 約 2 4 万羽

= 殺処分、埋却処分、汚染物品の処理状況 =

殺処分羽数

農場名	期 間	殺処分羽数 (羽)	備 考
A 農場	2月29日~3月4日	25,015	
T養鶏場	3月5日	14,690	
合 計		49,705	

死亡鶏、汚染物質の埋却処分 (フレコンパック数)

農場名	死 亡 鶏	飼 料	卵	鶏 糞
A 農場	1,048 (225,200羽)	93	167	-
T養鶏場	50 (14,690羽)	19	-	210
合 計	1,098 (239,890羽)	112	167	210

(注) 上記のほか、感染防護に使用した防護服等の処分

《2. 大規模事案に対し、早期処分のため多くの人々と連携》

- ・府職員・機動隊の大量動員
- ・国、近隣市町、関係府県等への職員派遣要請
- ・自衛隊の派遣依頼(事業委託派遣 災害派遣)
- ・民間企業、JA
- ・地元、T町との連携(埋却地の決定、鶏糞処理、町民ボランティア等)

職員等の大量動員・応援

= 大量の感染防護資器材の調達と万全の感染防護措置への支援

= 高病原性鳥インフルエンザにかかる動員・応援状況（2月26日～3月22日） =

区 分		累 計
京 都 府	現 地	4 , 4 6 2
	庁内（後方支 援）	5 , 6 9 1
警 察		8 8 0
1 4 市町等		8 9 1
京都市		1 6 0
国・他府県		3 8 0
農業会議		5
自衛隊		2 , 0 2 0
ボランティア		5 2
日 赤		2 4
業 者		9 4 2
		1 5 , 5 0 7

（注）感染防護、消毒措置など健康管理活動従事者は、後方支援に含む

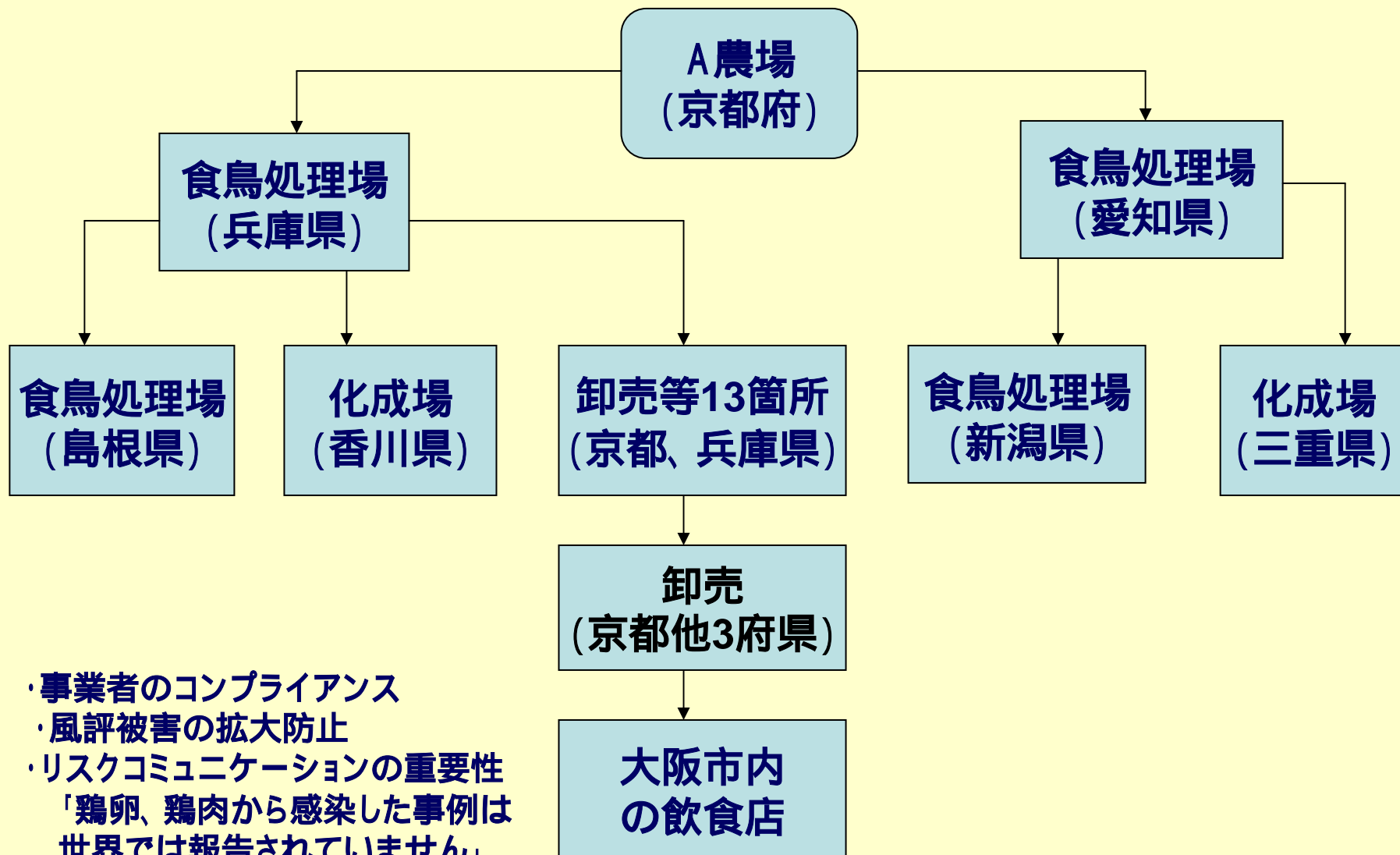
《3 . A農場事案発覚の1週間の遅延の影響や 想定外の事態の発生》

(1) 鶏卵の全国への流通、生きた鶏が他府
へ広がる混乱

鶏 卵 2府4県 986,500個

成 鶏 鶏肉の複雑な流通ルート、

= 発生農場（京都府）からの成鶏の出荷 =



- ・事業者のコンプライアンス
- ・風評被害の拡大防止
- ・リスクコミュニケーションの重要性
「鶏卵、鶏肉から感染した事例は
世界では報告されていません」
- ・流通ルートの解明、マスコミの対応

(2) T養鶏場への2次感染 最悪の事態の可能性
法律を超えた措置へ

疑似患畜の決定、殺処分要請(3月4日)

ウイルス確定(3月5日)

(3) 世界初のカラスへの伝染

カラス・野鳥のウイルス検査

ヒトのウイルス検査とカラス・野鳥のウイルス検査を並行して実施する検査体制を整備

農林水産部研究所、保健福祉部衛生研究所、府立医科大学との役割分担

《 4 . 京都府内で最大の鶏卵・鶏肉生産地での発生》

= 移動制限区域内 (3 0 km以内) における採卵農家数と卵の発生量 =

農 家 数		2 2 戸
飼養羽数		6 4 8 , 9 3 0 羽
卵の発生量	個 数	6 4 4 , 0 2 3 個 / 日
	重 量	4 2 トン / 日

移動制限期間内の鶏卵 $6 4 . 4 \text{ 万個} \times 4 4 \text{ 日} = 2 , 8 3 3 \text{ 万個}$
 ・ 2 次感染拡大防止への取組 / 鶏卵の保管、処理

3 対策の基本

= SARSの教訓 =

現地現場主義

- ・ 宿舎の非公開 地元の混乱、風評被害
- ・ 対策本部会議の非公開 マスコミの詮索
- ・ 国、市町村等との連携不備 一方通行
- ・ 防疫措置の不統一 住民不安

《1. 現地・現場主義》

ア. 現地対策本部(園部地方振興局・家畜保健衛生所、園部保健所、園部土木事務所等)

イ. 幹部による現地対応 副知事、農林水産部長等現地で陣頭指揮

ウ. 専門家の現地調査(専門家会議委員による現地調査)

現地・現場主義の観点にたち、本庁に「高病原性鳥インフルエンザ対策本部」設置

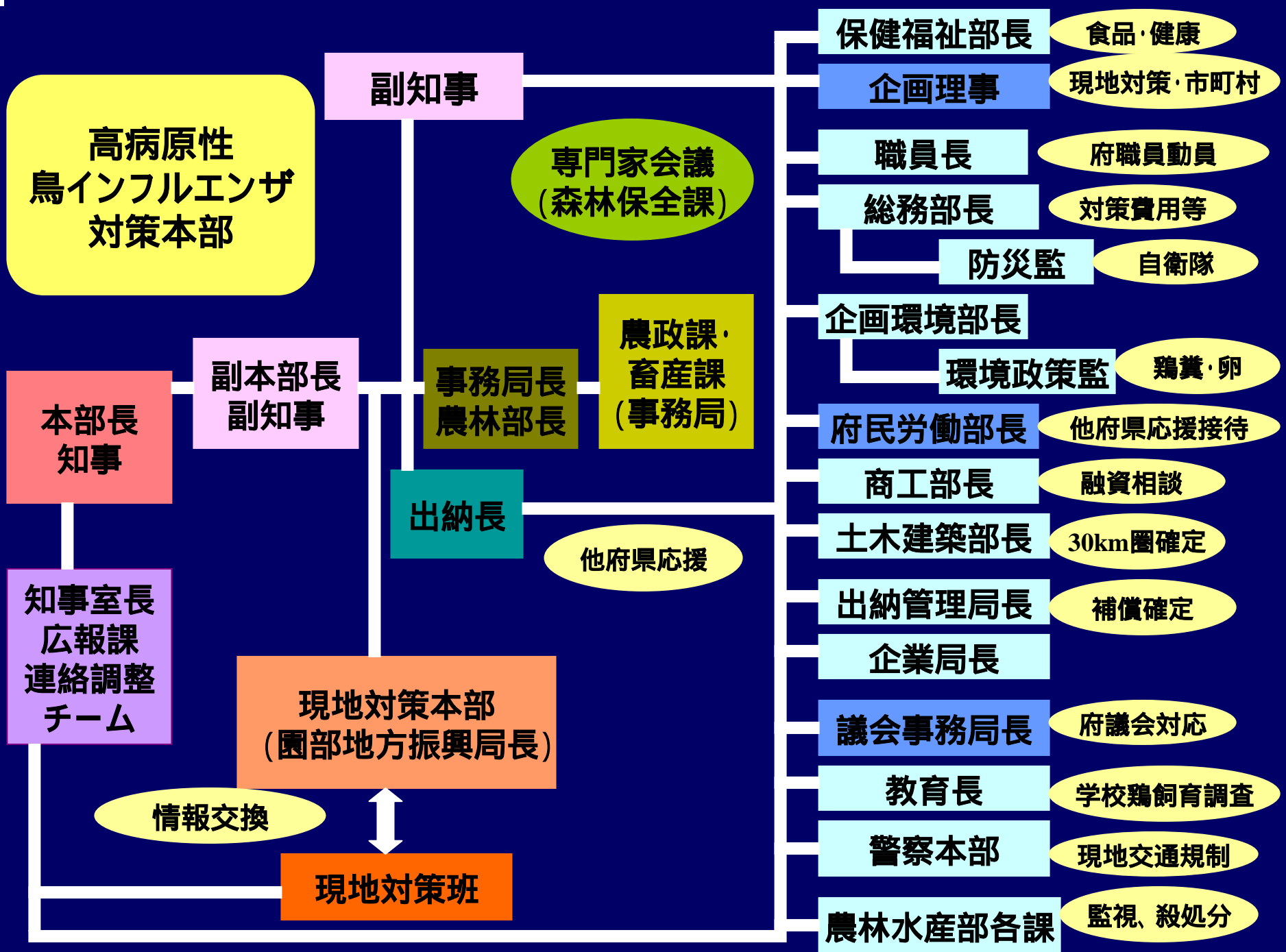
部局横断的な、庁内組織をあげての対応

《2. 情報公開の徹底》

ア. ホームページでの詳細な情報提供 アクセス件数60万件

イ. 相談窓口の設置(ヒトの健康、鶏の病気)(土・日曜日も窓口開設)約3,000件

ウ. 26回の対策本部会議の公開



**高病原性
鳥インフルエンザ
対策本部**

副知事

**本部長
知事**

**副本部長
副知事**

**知事室長
広報課
連絡調整
チーム**

**専門家会議
(森林保全課)**

**農政課・
畜産課
(事務局)**

**事務局長
農林部長**

出納長

他府県応援

**現地対策本部
(園部地方振興局長)**

情報交換

現地対策班

保健福祉部長

食品・健康

企画理事

現地対策・市町村

職員長

府職員動員

総務部長

対策費用等

防災監

自衛隊

企画環境部長

環境政策監

鶏糞・卵

府民労働部長

他府県応援接待

商工部長

融資相談

土木建築部長

30km圏確定

出納管理局長

補償確定

企業局長

議会事務局長

府議会対応

教育長

学校鶏飼育調査

警察本部

現地交通規制

農林水産部各課

監視、殺処分

現地対策部

農家
指導班

現地
連絡
調整班

総務班

動員班

資材班

輸送班

消毒班

健康
管理班

現地対策班

消毒班

鶏
処理班

世話役

車両
消毒班

調査班

《3. 国との連携》

農林水産省、厚生労働省からの人員派遣 延べ471名、他に近畿農政局延べ215名

《4. 専門家による同時検証》

第三者委員会(専門家会議)の即座の立ち上げ(3月1日)

目的 府の対応についての検証(同時検証の重要性)

府の対応についての助言(防疫措置の進め方、死亡鶏や鶏糞の処理方法、野鳥の対処方法等)

= 微生物学、獣医微生物学、水質・土壌汚染、法律、鳥類、農業経済、感染症、土壌化学の専門家

現地対応やマスコミ対応に信頼感を付与

= 参考:関係予算措置状況 =

府の緊急対策 総額8億円

1)防疫対策

防疫措置、埋却地周辺の水質調査費など

2)生産者への損失補てん対策

採卵農家、肉鶏(ブロイラー)農家、種鶏農家への支援

養鶏農家の環境対策(鶏ふんのコンテナバッグの配布・貸与など)、野鳥対策(防

鳥ネット購入助成など)、養鶏農家緊急融資対策

3)広報

風評被害防止、不安解消のための啓発などの広報費

4 保健福祉部関係の主要な取組み

《1. 事前対応》

1 医療関係者等による感染症緊急対策チーム会議の開催(2月9日)

「ヒトからヒトへの感染事例は報告されていない。治療方法や検査方法が確立しており、現段階では四類感染症であることを踏まえ、冷静な対応が必要。」

「発生時における医療機関での受入や検査手順の周知を再度徹底すべし。」

2 感染症指定医療機関等関係者会議の開催(2月19日)

不安例・疑似症等発生時の対応方法、検査体制の確認等

《2. 発生時以降の対応》

全保健所、府立病院、衛生研究所をあげての動員体制。日赤、地区医師会はじめ関係機関の協力、とりわけ国立感染症研究所の専門的立場からの現地での助言、指導。

【特 色】

感染症対策など公衆衛生から、食品衛生、環境衛生、精神保健、労働衛生に進展

- (1) 発生時・発覚時・農場、養鶏場業務従事者等の疫学調査
- (2) 防疫業務の実施・防疫業務従事者の感染防護措置支援
- (3) 移動制限の実施・鶏肉等流通ルート の 解明 と 回収 措置 指導 等
- (4) 防疫業務の進展 = 鶏糞処理 処理鶏糞 約1万立方メートル、使用消石灰 1,300トン
 - ・・ 周辺環境の水質監視、業務従事者の消石灰など粉塵防止対策
- (5) 長期業務従事等・関係者のメンタルヘルス

【個別事項】

- 1 高病原性鳥インフルエンザ相談窓口の設置
鶏卵、鶏肉の安全性への相談が主要な相談事項 約3,000件
- 2 接触者の疫学調査、健康管理等
養鶏業務従事者及び養鶏場立入者
養鶏場周辺住民等の不安解消のための健康教育等
中学校、保育園、周辺住民など
- 3 円滑な防疫業務実施のための措置
業務従事者の健康状況の把握と医師配置による健康管理
消石灰散布時以降、労働衛生機関の助言、眼科医師の配置等
業務従事者の感染防護措置の支援、業務終了時の消毒、抗インフルエンザウイルス薬の予防投与など
感染防護資器材の調達等
- 4 食鳥処理業者、輸入動物取引業者の調査
- 5 ウイルス検査等(農林水産部等と役割分担)
ヒトのウイルス検査 / カラス・野鳥のウイルス検査 / 埋却処理場周辺の水質調査
- 6 その他
食の安心・安全推進懇話会の開催
食品衛生監視指導計画の策定等
業務従事者の健康調査等

本当の安心・安全への国・地方の役割

1 死亡鶏・鶏糞の最終処理と住民の不安の解消

地元の意向と専門家会議からの助言を得て処理

2 早期発見、早期通報、早期対応のための農家と行政の信頼関係の構築

常日頃からの相談・指導体制の充実

通報者の保護、風評被害も含めた農家の受ける損失補填の実施

3 国、都道府県、市町村の役割の明確化


感染ルートの早期解明、大量の鶏・鶏糞の処分方法、野鳥感染の対処方法等、国の役割重要

4 「食の安心・安全」食品の信頼回復のための取組

「食の安心・安全プロジェクト」の設置

「食の安心・安全アクションプラン」の検討に着手

HACCP、トレーサビリティシステムの導入に向けて検討中



京都府で発生した
高病原性鳥インフルエンザ事案について：
その2

現地における健康管理活動

- **蔓延防止**： 鳥インフルエンザウィルスに感染した家禽類の殺処分、 汚染されたおそれのある物品の移動制限、 養鶏場の消毒及び衛生害虫の駆除
- **ヒトへの感染防止**： 防疫作業時の防護服等の着用、 作業後の厳重な消毒、 感染リスク高い場合の抗ウィルス剤予防内服、 作業後の潜伏期間中の健康観察
- **新型インフルエンザの出現防止**：
防疫作業従事者へのヒトインフルエンザワクチン接種

健康管理班の活動概要

1 養鶏場従業員の心身の健康管理

2 防疫作業従事者への事前の健康対策説明

感染防止のために配慮すること、防護服一式の着脱方法、
抗ウィルス剤の予防内服、作業終了後1週間の健康観察方法

3 防疫作業前後の心身の健康相談

4 作業従事者と物品、車両の消毒

5 現地医務室での救急処置

6 医療機関との連携(救急、インフルエンザの診断、サーベイランス)

7 養鶏場周辺の住民への説明会、健康観察と健康相談(主にT町)

8 相談窓口(ホットライン)対応

9 情報提供

10 現地における作業管理と環境管理

11 インフルエンザワクチン接種: 養鶏場従業員・家畜保健衛生所職員

養鶏場従業員等の心身の健康管理

A農産、T養鶏場従業員 33 人

A農産、T養鶏場への立ち入り業者 約300

幼稚園児 120

小学生 349

中学生 293

教職員 64

丹波自然公園合宿大学生等 21

合 計 約1180

健康管理の流れ

受付

事前説明資料
と
事前問診票
配布

事前説明
と
健康教育

- 鳥インフルエンザ概要
- 作業の感染リスク
- 感染防止対策とタミフル
- 作業不適な健康状態
- 作業後の注意
- 防護服の着脱デモ

保健師による
問診、検温、
血圧測定

医師の
診察、相談

タミフル
予防内服

防護服に
着替え現地へ

医師の
診察、相談、
応急処置、
病院紹介

保健師の
問診、検温、
血圧測定

健康調査票
記入

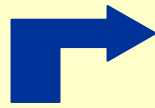
消毒終了後

防疫作業開始時の問診項目

- 1 インフルエンザに関すること
 - ・1週間以内にインフルエンザに罹患したか
 - ・1週間以内に家族でインフルエンザに罹患した人がいるか
 - ・インフルエンザワクチン接種の有無

- 2 健康状態
 - ・喘息等慢性呼吸器疾患の罹患
 - ・心疾患の罹患
 - ・腎疾患の罹患
 - ・肝疾患の罹患、肝機能異常
 - ・薬物アレルギーの有無
 - ・高血圧症の有無
 - ・風邪症状の有無
 - ・その他(血液疾患、アトピー性皮膚炎など)

- 3 家禽類の飼育状況



健康管理班



消毒の順路



養鶏場での全身消毒



現地基地での消毒



一路
本部へ



対策本部で最後の
手洗い・うがい



車両消毒



使用した消毒薬

ヒト

消毒用アルコール

マスク

次亜塩素酸ナトリウム

ゴーグル、長靴、車輻

逆性石鹼

現地における作業管理、環境管理

主眼 トリーヒトの感染防止
安全性の確保
消石灰による健康障害の防止
心身の過労の防止

対策例

マスクの息苦しさ・・・曇り止め、サポータ
消石灰対策・・・水道、眼科医、ゴーグル変更
防寒対策



消石灰による皮膚びらん

消石灰散布

防塵面体マスク



消石灰による結膜炎



防疫対策従事者健康相談(延べ人数)

事前健康診断 事後健康診断

有症状者(病院紹介)

A農産防疫作業	2,401	3,889	513(20)
T養鶏場防疫作業	512	472	12(2)
合計	2,913	4,361	525(22)

(注)有症状者の多くは、高血圧、消石灰による皮膚炎症、結膜炎など。高病原性鳥インフルエンザの感染者はなし。

健康管理従事者内訳

	健康相談従事者				消毒班従事者	健康管理 従事者総数
	医師	保健師等	調整事務等	合計		
京都府保健所等						
実人数	12	68	34	114	95	209
延人数	94	235	207	536	198	734
京都市、府立病院等						
延人数	39	22	1	62	0	62
合計延人数	133	257	208	598	198	796

消毒班：民間業者を除く

使用した主要な感染防護用資機材

防護服： 19,365 着

マスク： 19,475 個

ゴーグル： 7,366 個

その他：手袋類、エプロン、
シューズカバー、長靴など





医療機関連携

1. 作業中の救急受診
2. 鳥インフルエンザに関わる背景のあるインフルエンザ様患者の受診対応
3. 貿易作業従事者の作業後の受診
4. トリーヒト感染事例発見のためのサーベイランス
5. 抗ウィルス剤長期内服者の健診
6. 救急医薬品の調達
7. 救急処置方法の助言

養鶏場周辺住民に対する 健康相談及び説明会等

- T町保健師等による全戸訪問、集会所における健康相談、T町有線放送による情報提供
- T養鶏場周辺住民に対する説明会
- 一般住民に対する情報提供
- 国立感染症研究所主任研究官による管内各町保健師対象研修会

園部保健所電話相談件数

相談経路内訳	
経路	件数
一般府民	147
食鳥業者	17
医療関係者	15
学校関係者	6
行政機関関係	19
報道関係者	8
福祉施設関係	6
合計	228

相談内容内訳	
内容	件数
健康に関すること	102
食事・食品に関すること	36
ペットや鳥に関すること	32
販売に関すること	7
消毒に関すること	11
その他	81
合計	269

今回の防疫対策を振り返って



防疫対策を完了できた背景

京都市、近隣市町村からの多大の御支援
保健福祉部・保健所・保環研の連携

府立医大病院、3府立病院、第一・二日赤、
公立南丹病院、消防署との緊密な連携

SARS対応感染症危機管理の経験

国立感染症研究所砂川主任研究員と2名のFETP
による助言・指導

防疫対策で得た教訓

保健所が受信する第一報の重み

食の安全を共通課題とした日常的なヨコの連携の重要性

正確で迅速な情報の共有と伝達方法

危機管理と並行して行う平常業務

- ・ 職員の意識の統一をどう図るか
- ・ 臨機応変の役割分担・協力

感染症対策時の人権擁護とメンタルヘルスの重要性

産業保健の視点：作業管理と環境管理

地域保健、産業保健、学校保健、環境保健の連携

感染症対策、生活習慣病対策、精神保健対策

風評被害の防止：住民の方々への丁寧な情報提供

顔の見える対話、協働作業による心の交流の大切さ

